

種間交雑キンセンカ「オレアネオ」の育成

粥川 壮優・加藤 克彦

Breeding of a New Interspecific Hybrid Of Calendula Variety "Orea Neo"

Takehiro Kayukawa, Katsuhiko Kato

要約：岐阜県が育成したキンセンカ種間交雑品種「かれん」シリーズの採穂性向上を目的に既存品種「オレア」から得られた種子に重イオンビームを照射し、発芽した照射種子個体について採穂性、草姿に優れた系統を選抜した。本系統を「オレアネオ」と命名し、農林水産省へ品種登録出願を行った。

「オレアネオ」は花形、花の大きさ、舌状花数、管状花部の大きさは元品種「オレア」とほぼ同様であるが採穂性に優れ、草姿は「オレア」が開張であるのに対し直立となる特性を有する。本品種は採穂性の高さから生産性に優れ、草姿は立性となることから、新たに花壇苗の需要も期待できる。

キーワード：キンセンカ、種間交雑、新品種、採穂性、草姿

緒言

岐阜県が育成したキンセンカ属の種間交雑品種「かれん」シリーズは花壇苗用品目として平成22年に農林水産省に品種登録され、冬季に露地で咲き続ける品目が少ない中、新しい品目として県内で生産されている。

本品目は挿し木によって増殖・生産するが、花芽を早期に形成しやすいため良質な挿し穂を確保しにくく、生産性向上のため挿し穂を効率的に確保できる品種が望まれていた。そこで、採穂性の向上と草姿を改善した新しい品種「オレアネオ」を育成したので、その育成経過および特性を報告する。

育成の経過

平成22年度に、県が育成した「かれん」シリーズの品種「オレア」種子に重イオンビーム照射(核種：炭素、線量：40Gy)を行い、変異を誘発した。

平成22年～23年度にかけて、発芽種子の中から立性で採穂性が高く、花が「オレア」に類似する系統を選抜した。

平成24年度には選抜系統の生産性を確認するとともに特性検定を行い、有望性を確認し、平成25年度に農林水産省に対し品種登録出願を行った。

平成22年度	「オレア」種子50粒に重イオンビームを照射し、12個体が発芽
平成22年～23年度	草姿、採穂性、花色・花型等を調査し、有望な1個体を選抜
平成24年度	選抜個体の生産性調査及び特性検定により有望性を確認
平成25年度	本有望系統を「オレアネオ」と命名し農林水産省に対し種苗登録申請

「オレアネオ」の特性

1. 特性調査の概要

(1) 試験概要

① 供試品種

育成品種「オレアネオ」

対照品種「オレア」、「オレン」

② 耕種概要

挿し木 平成23年10月16日

鉢上げ 平成23年11月7日

鉢替え 平成24年1月10日(4号鉢)

調査 平成24年3月

用土 pH調整ピートモス

施肥 用土にロング肥料313-140日タイプを5g/L混合

(2) 生育特性

花型は対照品種「オレア」、「オレン」と同じ一重咲きで、花の大きさ、舌状花数、管状花部の

大きさは「オレア」とほぼ同様である（表1）。また、花卉の色および花の中心部の色も「オレア」と同様となり、花の特性に相違は見られない（表1、図1）。

草姿は直立で、対照品種「オレア」、「オレン」と比較し真直ぐに伸張し、草丈も高くなる（表2、図2）。葉は厚く、葉長も対照2品種に比較して長くなるが、開花はやや遅くなる（表2）。上部の分枝が多いため、開花数も対照品種に比べ多く

なる（図2）。耐寒性やうどんこ病抵抗性は対照品種とほぼ同等である。

1回当たり採穂数は、「オレアネオ」が20.4本で、対照品種の6.3本より多く、採穂性に優れる（図3）。

花色の発現は「オレア」と同様に低温期で優れるが、花軸はやや伸張しやすい。また、栽培管理は既存品種「オレア」に準じ、耐寒性が強いことから冬季の栽培に利用できる。

表1 「オレアネオ」の花の特性

品種名	花の 大きさ [cm]	舌状花数 [枚]	管状花部の 大きさ [cm]	花卉の色 注)	花中心部 の色
オレアネオ	6.0	31	1.2	オレンジ (25A)	赤紫
オレア (対照)	6.6	30	1.1	オレンジ (25A)	赤紫
オレン (対照)	5.4	27	1.0	オレンジ (25A)	橙

注) カッコ内はRHSカラーチャートの色票番号



図1 花形、花色の比較

表2 「オレアネオ」の形態特性と開花性

品種名	草姿	株高 [cm]	茎太 [mm]	葉厚	葉長 [cm]	開花性 注)
オレアネオ	直立	30.0	5.5	厚	10.5	中
オレア (対照)	開張	22.5	3.9	中	7.5	早
オレン (対照)	半直立	23.5	3.1	薄	6.3	早

注) 栽培期間の長さで分類；早：4.5か月、中：5か月、晩：5.5か月



オレア オレアネオ オレン

図2 草姿の比較

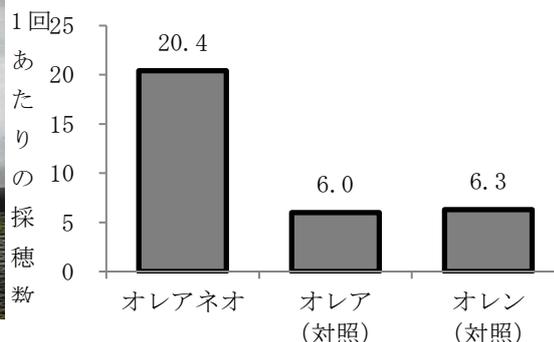


図3 「オレアネオ」の採穂性

※採穂数：頂芽に花芽形成のない側枝数(4号鉢調査)

		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
秋出荷作型	鉢花	○	△	×	▲	×	■					
	苗物	○	△	×	■							
春出荷作型	鉢花				○	△	×	▲	×	■		
	苗物				○	△	×		■			

○: 挿し木 △: 鉢上げ (2.5号) ×: 摘心 ▲: 鉢替え (3.5号) ■: 出荷

図4 「オレアネオ」の作型

2. 普及性

既存品種「オレア」に準じた栽培が可能で、採穂性にも優れ、生産性の向上とともに、草姿が既存品種と異なり立性となるため、従来の鉢花としての活用のほか、立体的な花壇にも利用でき、苗物としての需要増も期待できる(図4)。

また、本品種は国内の新品種コンテスト「ジャパンフラワーセレクション」苗物部門において「ベスト・フラワー(優秀賞)」を受賞しており、花壇苗としての優れた特性が評価されている。

3. 利用上の注意点

節間は短いですが花軸が伸張しやすいため、蕾形成時にわい化剤処理による生育調節が望ましい。

強健で、四季咲き性もあるが、夏期高温時には、小輪化・退色する場合があります。

Abstract

We made a new variety of 'Calen' series, which are interspecific hybrid plant of *Calendula arvensis* and *Calendula officinalis*, by irradiation of ion beam to 50 seeds of 'Orea' and seedling selection. We named this new variety 'Orea Neo'. The characteristics of 'Orea Neo' are as follows;

- 1) Flower is as mostly same as 'Orea's.
- 2) Plant posture is upright habit.
- 3) Cutting production efficiency is superior to the existing varieties's one.

Key words

Calendula, Interspecific hybrid plant, New variety, Cutting production efficiency, Plant posture